



第82巻 第1号
年4回発行
社会福祉法人 慈生会
〒165-0022
東京都中野区江古田3-15-2
TEL 03-3387-5567
http://www.jiseikai.jp
振替口座 ベタニアの家
00170-6-15317

光は闇の中で輝く(ヨハネ1の5)

シスター田代 嘉子

主のご降誕と

新年のお喜びを申し上げます

旧年中皆様から賜りましたご好意に感謝申し上げますとともに、本年も一層のご協力を賜りますようあらためてお願い申し上げます。

「神の母聖マリア」の祭日、「世界平和の日」のうちに新しい年を迎え、何よりも戦争や分裂、憎しみや飢餓などのない平和な世界が早く来ますようにと祈ります。

昨年も、新型コロナウイルス感染症に翻弄された1年間でした。時期的には1〜2月にかけての第6波、



ベトレヘム第三修道院前庭に立つ「ルルドのマリア」像

あるいは7〜8月にかけての第7波のどちらかで各施設の利用者と職員の間に関係者が頻発してしまいました。施設内での感染拡大を防ぐために、施設長をはじめ職員が一丸となって感染を封じ込め、事態を収束することができたことに心から感謝しています。

多くの人の人生を苦難に陥れるのはコロナや戦争、テロだけではなく、地球温暖化に伴う異常気象による自然的な災害が、ところ構わず頻発し、多くのいのちや貴重な財産を奪っています。

日々飛び交う悲しいニュースや、不安を煽る情報などで、心が塞がれそうになったら旧約聖書にある格言「悲しみに負けて気力を失うな。あれこれ思い悩むことはない。朗らかな心は、人を生氣にあふれさせ、喜びは長寿をもたらす」(シラ書30章の

21、22節)という簡潔な言葉を心に留めてはいかがでしょうか。

昨年は法人が主催する創立記念ミサと永年勤続者表彰、ベタニアチャリティーコンサート、大半の研修会が3年ぶりに対面で行われ、安堵感を得ました。

令和5年4月にはマ・メゾン光星で新規事業、多機能型事業所「フルール」(多くの個性を持った方が集まり、個性という「花」を咲かせられる場所になってほしいという思いが込められている。)が開設します。放課後等デイサービス「エスポワール」の隣接地で、就労継続支援B型、生活介護の機能をもつ事業所です。ここでは地域の知的障害がある方々に対し、就労に必要な知識及び能力の向上のための必要な訓練を提供し、工賃の支払いもできる就労継続支援B型と創作的活動や生産活動の他必要な介助、支援を提供できる生活介護を行う予定です。たくさん喜びや希望、豊かさが生まれ、地域福祉への積極的な貢献に繋がるよう、皆様のお祈りとご協力をお願い申し上げます。

(慈生会理事長)

謹んで主のご降誕と新年のご挨拶を申し上げます、皆様の上に豊かな恵みをお祈り致します。

社会福祉法人 慈生会

理事長 Sr・田代 嘉子

役職員一同

徳田保育園

中野トータルサポートセンター

ベタニアホーム・慈しみの家

ベタニア・デイ・ホーム(月)(星)

中野北ベタニア訪問看護ステーション

慈生会中野ケアプランセンター

ベタニアヘルパーステーション

中野区江古田地域包括支援センター

ナザレットの家

ベトレヘム学園

聖家族ホーム

聖ヨゼフ老人ホーム

慈生会清瀬ケアプランセンター

ベトレヘムの園病院

マ・メゾン光星

指定相談支援事業所 ノエル

放課後等デイサービス エスポワール

学校法人 東星学園

(幼・小・中・高等学校)

理事長 Sr・田代 嘉子

教職員一同

ベタニア修道女会

総 長 Sr・田代 嘉子

姉妹一同

ベトレヘムの園病院 研究発表会の歩み

窪田 由佳

令和四年十月二十日に院内研究発表会が開催されました。演題は五つあり、リハビリテーション科は、患者のポジショニングについて調査し、目的意識は病棟スタッフと共通である事が分かり、限られたクッションでの持続可能なポジショニングの課題が挙がりました。栄養科は、食材価格の高騰に伴うコスト削減の取り組みとして、単回使用だった油を、酸価度を測定し、安全性を確認後二回まで使用し、美味しさも保ち、経費削減も出来ました。薬剤科は、今までなかなか治癒に至らなかった持ち込み褥瘡に対し、アクトシン・イソジンシュガーパスタ混合薬を提案し、全身状態が悪い患者様にも改善がみられ、滑らかな質感で塗りやすく今後の効果が期待されました。看護部はケアワーカーに行った標準予防策レクチャーの効果を検査し、感染委員として継続的な学習や、心理面、環境面への配慮の必要性を明らかにしました。臨床検査科は、電カルの Microsoft Excel を用いて業務マニュアルを作成、運用し、常に業

務に最適化されたマニュアルが運用されるようになりました。

研究発表会は今年で二十二回目と中止になったコロナ禍でも、細々ながら開催してきました。この投稿を機に過去の研究会を振り返ってみました。私が入職後初の研究発表会は平成十七年の第五回で、近藤副院長が世話役でした。その会は抄録集も発行され、当時の木下院長の寄稿文には「たえず医学の進歩に目を向け情報を集め、一方でわれわれの現場の医療における問題点を見出してその解決・改善に向けた方策を案出し、実践して評価する、それが研究的態度で医療、職業人としてつねに心がけなければならぬ。この研究発表会が今後発展的に継続され実りある成果を生むよう望んでいます。」とありました。近藤先生は「本院は創立七十年の老舗である。老舗は旧態を守る事ではない。老舗は常に先頭となり時代を導いていなければ滅んでしまうだろう。当院が常に時代の先端になるために、本研究が大きな役割を果たして欲しいと思う。執筆者は、研究は説明ではなく時代の先端を考える事を意識して、調査に耐えるようにする必要があります。」と

時、近藤先生から「今回は英文で抄録集を作る」と言われ頭が真白になった事を覚えています。

研究には、当院オリジナルの内容の発表も多くありました。第十一回には、薬剤投与に欠かせない「けんだくボトル」をメーカーと病棟の協力のもと開発し薬剤科が発表しています。第十三回には、入浴時にチュープ類の除去や皮膚損傷を防止する「プロテクトボトル」を作成、第二十回には拘束委員会が中心となり、身体拘束ゼロを目指して、ミトンの代替品となる「ベトボール」を作成し、その成果を看護部がまとめました。又、第十回の栄養科「経管栄養二回法実施後の結果報告」は、慢性期医療学会で優秀賞を頂きました。症例研究として第十五回に、重症ギランバレー症候群の A 氏が、入院五年後に在宅療養が可能になった一例を紹介しました。パストラルケアが根底にある当院の、患者の苦しみに寄り添い患者と共にあるチーム医療が、QOL を高める事に繋がり、この実践は医療機能評価の症例トレースで高評価を頂きました。第十七回には「地域の公益的な活動」への挑戦として、医療連携室の協力のもと事務部が「中間的就労」の活動実践をまとめ、広域連携事業に貢献して

います。そして第二十回には摂食に変動のある患者への関わり、第二十一回には個別性を生かしたレクレーションを、ケアワーカーがまとめ、念願の学会発表もできました。

教育講演として、歴代の院長である、星先生は医学史に関する内容、前村先生は中央アフリカの旅を写真と共に、青木先生は日本一の慢性期病院へビジョンを示す内容等、一つ一つがこの病院の栄養となり、遅くなっていると実感しています。今病院は、ストラクチャーだけでなく、プロセスとアウトカムで評価される時代に変化しています。何ほどのくらい良くなっているか？その根拠となるデータは？私達は日々の実践を「見える化」する必要があります。まさに研究会はその重要な機会です。流れていく実践の中からテーマを見つけて、成果としてまとめ、ベトレヘムの園病院の共通の宝として発表していく。この取り組みは、青木院長先生の言うベトレヘムに足りないのは病院の良さを「外に伝える力」の具体的な行動になると考えます。困難な課題に對峙し、もがき追及する事こそ、患者さんへ提供する医療、ケアの質の向上に繋がると信じています。

(ベトレヘムの園病院 看護部長)

コロナ禍の待降節

大滝 浩二

マ・メゾン光星では、毎年、クリスマスを迎えるにあたり、利用者さんたちと待降節の目標を設定します。待降節の目標は、「クリスマスを迎えよう」と、ファミリーごとに利用者さんと職員と一緒に考えます。そして、待降節の期間に入ると、毎日の祈りの時間に、各ファミリーで、それぞれの目標の達成状況について一日の振り返りを行ない、ツリーに飾り付けをして過ごします。そして、振り返りの際には、ツリーに飾り付けをしたい利用者さんが、「友達に優しくしました!」、「手伝いを頑張りました!」等と、積極的に話をしてくださることもあります。

そして、皆で完成させたツリーは、クリスマスのミサの際に奉納されます。各ファミリーから集められるツリーは、それぞれのファミリーの豊かな個性や特徴が反映されたものとなります。そのため、日々飾り付けされていくツリーが、最後にどのようなものになるのか、毎年とても楽しみになります。

また、待降節には、絵本の読み聞かせも行ないます。絵本の読み聞かせでは、クリスマスや待降節に関するもの等を取り上げます。そして、絵本が皆で見るには小さすぎることもある為、時にはプロジェクターを使って壁に絵を映し出したりすることもあります。また、利用者さんが楽しく読み聞かせに参加できるように、絵本の他、DVDの上映を行なうことにしました。



新しいスロープ

このスロープを聖劇の「聖なる道」として活用するのです。長年にわたり聖劇を演じてくださった利用者さんも高齢化してきて、暗い中での演技、壇上にかかる歩行が難しくなってきました。役者の世代交代が必

要な状況になってきました。このスロープを活かし、新しい振り付けの練習をしました。また、このスロープは、新型コロナウイルス感染症発生時の速やかな感染対策をとるためにも活かすことが出来ます。

(マ・メゾン光星 生活支援員)

『ベタニアの家チャリティーコンサート』報告

実行委員 江間 公義

十二月十日(土)、カトリック徳田教会で「ベタニアの家チャリティーコンサート」が行われました。新型コロナウイルス感染症のため、この2年は開催することができませんでしたが、今年は感染防止対策を実施し、例年よりも規模を縮小して開催することとなりました。久しぶりの開催でしたが、年末のお忙しい時期にもかかわらず、多数の皆様にご来場いただきました。

ご出演いただいた金井良晃様には、ご来場の皆様楽しんでいただけのように、多くの方が耳にしたことが

ある曲をセレクトしていただき、軽快なタッチのすばらしいピアノ演奏で素敵なお時間を演出していただきました。本場にありがとうございました。ご来場の皆様にも最後まで楽しんでいただけたかと思えます。また、同窓会のようにこのコンサートを紹介して久しぶりにお会いになられる方もおられた様子で、和気あいあいとした雰囲気、スタッフ・関係者一同も、コロナ禍で忘れかけていた人の温かみを改めて感じたように思います。

今回のコンサートでも、多くの方々のご協力とご支援を頂戴致しました。厚く御礼申し上げます。チケットの売上げ並びにご寄付いただいた金額の総額が三八六、二二一円となりました。このことをご報告させていただきます。

(慈生会本部 総務課長)





今回は、SDGs 13「気候変動に具体的な対策を」をわたしたちの行動で地球があつくなるのをとめようをお伝えします。

テレビや新聞で溶けかかっている氷の上に白熊が行き場を失っている写真を目にすることがあります。近年気候変動が著しく世界中に大きな影響や被害が現れています。

今年パキスタンの南部では六月から二カ月間豪雨が続き、国土の約三分の一が水没(日本全土以上)。増え続ける水で高層ホテルは崩落、高波が高架道路や橋に押し寄せるなど千五百人以上が亡くなりました。被災者は三千三百万人以上(住民の七人に一人)、家を失ったり、避難した人は何百万人にもなりました。

科学者によれば、五十度以下の熱波に見舞われた後、まもなく洪水が発生、氷河を溶かし、河川の水高が膨れ上がり、その後豪雨が続き、パキスタンのイクバル計画開発相は

「先進国は生活の質を享受しているが、その代償は途上国の人々が払っている」と述べています。

今年十一月にエジプトで開かれた気候変動対策の国連会議「COP27」で途上国を対象とした気候変動における被害を支援するために新たな基金創設が画期的合意、決まりました。その具体的内容は、来年の「COP28」で検討となりました。

教皇フランシスコは「環境悪化による貧困から移住者数は痛ましいまでに増加しています。世界中至るところで苦しみへの無関心、悲劇への反応の鈍さは同胞への責任感の喪失を示しています」(回勅「ラウダート・シ」25番)と言われます。

私たちのできることは何でしょう？ 私たちのライフスタイルを①④に少しでも変えていきましょ。

①気候危機を自分事とし、気候危機の影響を最も受ける子ども達と話し合い、家族で、共同体で危機意識を持つ。

②気候危機に関心を持ち、世界で何が起きているかを知る。(世の中の三・五%の人が動く)と社会が変わる。

③気候危機対策を推進している企業・政治家・自治体を応援する。(製品購入、株式取得等)

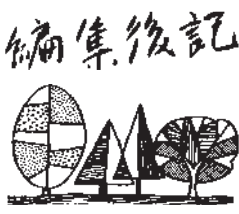
④省エネ・再エネ・3R(リデュース、リユース、リサイクル)・公共交通を選択し継続する等。(コロンバン会司祭の「温暖化防止ニュースレター」参考)

(記・Sr 松永)

計 報

シスターツルデ 宮下 すず子

生 年 一 九 一 九 年 十 二 月 二 一 日
 一 九 五 〇 年 六 月 八 日 立 誓 願
 二 〇 二 二 年 十 一 月 十 四 日 帰 天
 歴 史 一 月 十 四 日 修 道 女 会



コロナ禍になって、もうすぐ3年を経過しようとしています。ホームの利用者の皆さん、職員もなかなか楽しめる事が少ない日々が続いています。そんな中、十一月に利用者の方のために出張衣類販売が一階の交流スペースで行われました。数人のケアワーカーが楽しそうに担当利用者の衣類を見つめる風景は、コロナ禍前に戻ったようでした。今年は楽しい風景が増えることを期待したいと思っています。

(中村 英男)

一年前の編集後記にて来年のどんぐり祭はみんなが集まることができるようにと願いを込めて書きました。今年、今年第五十回どんぐり祭も開

催を迷いましたが残念ながら中止としました。中止ではありませんが、昨年同様に園内での開催にしました。学園の子どもたちは、好きな物を購入したり、ゲームで遊んだりなど小規模のイベントでしたが、みんな楽しめたようです。

(関 広宣)

今回のマ・メゾン光星の記事、聖劇は、当施設にとっての一大イベントです。特に音楽に合わせご利用者のみで演じ切る無声劇は、観てくださった方に感動を与えるものです。言葉ではなく、しぐさで、お生れになるイエス様のお恵みを喜び、感謝する心を表現する。ご利用者だからこそ伝えられる、最高の表現方法のように感じています。言葉だけではなく心で、私も日々の仕事に取り組んでいきますように。

(杉山 智和)

日本のカトリック教会では、十一月二十七日待降節からミサの式次第が新しくなりました。ミサ中、気を散らすと間違えてしまうので、程良い緊張感を持ちながら、ミサへの行動的参加となっています。「朗読奉仕者の聖書朗読は、それ自体が神のことばを聴く奉仕であり、公けに告げ知らせる奉仕です」という説明を聞き、「聴く奉仕」の言葉が聖書への親しさを増してくれました。数千年も前の言葉なのに、今も日ごとに新しく、静かで小さな声なのに、私の力に今日もなってくれる聖書。二〇二三年初め、皆様も聖書を開いて読んでみませんか。良い一年となりますように。

(Sr 中野 利恵)